

# 2023



株式会社エフコムは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

株式会社 **エフコム**

F-COM Co.Ltd.

ICTソリューションの提供を通じ、お客様のより良いビジネスパートナーとして、経済・環境・社会に積極的に貢献して参ります。



## INDEX 【目次】

■ トップメッセージ	3
■ 特集1 【ドリーム・ラボ上伊豆島での取り組みについて】	
(1)社員のご家族向けに見学会を開催しました	4
(2)鹿嶋神社御神輿渡卸に参加しました	4
(3)地域のバレーボール大会に参加しました	5
(4)エムポリアム並木保育園職場見学会を開催しました	5
■ 特集2 【DX/デジタル人材育成サポート】	6
■ 特集3 【『Connect 2022 in Koriyama, with UDC』 ハッカソンで特別賞受賞！】	8
■ 特集4 【健康オンラインセミナー2023を開催しました！】	9
■ 地域への貢献（地域社会とともに）	
(1)エフコムベースボールクラブ	10
(2)職場体験学習活動	12
(3)ごみ拾い活動について	12
■ 人を育む【エフコムの塾】	13
■ 森を育む【エフコムの森】	15
■ 共に育む【エフコムの輪】	
(1)「一般社団法人ふくしま地域振興研究所」の活動	17
(2)「ふくしま創生 創・蓄・省エネルギービジネス創出研究会」の活動	18
(3)「情報セキュリティ研修」の紹介	18
(4)福島市様・菊池製作所様との包括連携協定	19
(5)「答べんりんく」議会答弁検討システムの紹介	19
(6)「獣マップ」の紹介	20
(7)郡山市教育委員会様との協定締結	20
■ 信頼への取り組み	
(1)品質向上（ISO9001）への取り組み	21
(2)情報セキュリティマネジメント（ISO27001）への取り組み	21
(3)ITサービスマネジメント（ISO20000）への取り組み	22
(4)クラウドサービスセキュリティ(ISO27017)への取り組み	22
(5)個人情報保護（Pマーク）への取り組み	22
■ データセンターが貢献するサステナブル社会	
(1)データセンターの紹介と環境負荷低減	23
(2)データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について	24
(3)大型ロール紙プリンタ活用によるサービス展開	25
■ ビジネスインフォメーション	26

## Trusted and Growup (信頼&成長)

～ 100年後も持続可能な企業であるために ～

エフコムは、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、企業価値を高める活動を積極的に行ってまいります。社員の皆さんとともにSDGsについて様々な角度から考え「誰も置き去りにしない」世界の実現をめざします。



私たちは「チームエフコム」の精神により「Smart thinking for you」の文化を醸成し、「お客様と共に感動を創造する企業」を目指し活動しております。

また、DX (Digital Transformation)の進展により、近未来のサステナブル社会(Society5.0)への変革が進む中、当社の果たすべき役割は多岐にわたり可能性を秘めていると考えます。

多様化するニーズや社会環境の変化をとらえ「デジタル革新」へ積極的に取り組み、お客様や社会が求める持続可能な新たな価値を実現する変革を起こし、共創によりイノベーションを加速させます。

そのような状況下において、持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals)の取り組みの意味および重要性を理解し取り組みを加速させることが必要だと考えております。

当社も、SDGsを事業並びに経営へ展開すべく未来志向で何をすべきなのかを考え積極的に取り組んでおります。

毎年発行の当サステナビリティ報告書は、社会における企業価値を考え、社会活動を行っている取り組みを広報してまいりました。

今後も更にSDGs経営やESG (Environment/環境、Social/社会、Governance/企業統治) 投資を、本質的かつ普遍的な企業価値と捉え、その実績が広報できるよう取り組みます。

また、2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式や働き方に対する変化への対応が求められ、新たな社会の在り方が構築されるなか、エフコムは、今後もいかなる変化にも対応し、「サステナビリティ」を経営の優先課題と捉え、事業を通じた社会課題の解決に全力で取り組んでまいります。



代表取締役社長  
齋藤正弘

# 特集 1

## 【ドリーム・ラボ上伊豆島

## での取り組みについて】

### (1) 社員のご家族向けに見学会を開催しました

社員が生き生きと活躍できる活動基盤構築のために運営しておりますF - m i n i n e WG企画による、社員とご家族へ向けた「ドリーム・ラボ上伊豆島見学会」を開催しました！

当日は施設案内とご家族で楽しめるイベントを準備し、各イベントをスタンプラリー形式でまわり、最後にはスタンプラリーの景品としてお土産を配布しました。久しぶりの再会に話が弾んだり、ゲームに夢中になったり、とても楽しい時間となりました。

#### ◇施設説明会

校内案内・施設紹介

#### ◇喫茶コーナー

お茶とお菓子でご歓談

#### ◇ゲームコーナー

体育館にてゲームを用意



未来の教室にて  
最先端の教育設備を  
見学しました！



多目的スペースの広々空間！  
普段は会議やセミナールームとし  
ても活用しています。



大人も子供もポッチャや卓球、な  
わとびなど体を動かし、楽しいひ  
と時を過ごしました。

### (2) 鹿嶋神社御神輿渡卸に参加しました

鹿嶋神社御神輿渡御（上伊豆島お祭り）に参加しました。

期日：10月8日（日）

主催：鹿嶋神社氏子、上伊豆島部落

場所：鹿嶋神社およびその周辺地区（郡山市熱海町上伊豆島地区、  
馬立地区\*小倉地区\*）

鹿嶋神社御神輿渡御（上伊豆島お祭り）は、4年に一度の開催です。

（\*馬立地区および小倉地区は、8年に一度の開催）

また、今年の9月30日（土）に鹿嶋神社の御神輿が  
絢爛豪華に修復されて戻って参りましたので、今回リ  
ニューアル後最初の鹿嶋神社御神輿渡御（上伊豆島お祭  
り）となりました。

当社からは、ドリーム・ラボ上伊豆島に勤務する社員  
を中心に10数名が楽しく参加しました。



### (3) 地域のバレーボール大会に参加しました

郡山市立熱海公民館上伊豆島分館事業である方部対抗バレーボール大会が久しぶりに開催されました（昨年はコロナの為、中止）。

当社は今回初参加で老若男女の社員16名が楽しく参加させていただき、エフコムチームは3位となりました。また、午後からはバレーボール参加者全員および地域の方々と懇親会にて、手作り芋煮などを堪能しました。地域の皆さん、ありがとうございました。



### (4) エムポリアム並木保育園職場見学会を開催しました

11月28日（火）、エムポリアム並木保育園様（園児12名、園長先生及び保育士の先生3名）がドリーム・ラボ上伊豆島に職場見学のため来校されました。

弊社のご紹介（どんな仕事をしているか等、園児からの質問などに回答）その後、ドリーム・ラボ上伊豆島内の施設見学を実施しました。

当日はARを用いたマーカーを園児の皆さんに探してもらったり、ZoomにてWeb会議を体験していただきました。弊社としても初めての取り組みでしたが、園児の皆さんに楽しく体験していただけたことで、社員にとっても有意義な時間を過ごすことができました。



# 特集 2

## 【DX/デジタル人材育成サポート】

福島県の委託を受け、「ものづくり産業におけるDX人材育成事業」として、県内中小製造業様向けに、オンライン講座・ワークショップ研修・DX養成講座を実施し、県内約50社の企業が参加しました。また、研修の中で作成いただいた「DX人材育成計画書」や「社内調査票」を基に、訪問によるヒアリング等を行い、DX推進における課題解決に向けたサポート支援を実施しました。

### 【事業の趣旨】

本県の基盤産業である製造業において、デジタル技術を活用した業務効率化や課題解決や生産活動に伴う各部門・工程の横断的な全体最適化による生産性向上、更にデジタル化に合わせたビジネスモデル変革の実現に向け、専門家による支援のもと、企業が内製的にDX推進を図れるよう人材育成を行うものです。

### 【事業の概要】

1. DX人材育成計画書の作成支援  
企業が内製的にDXを実現できるよう、各企業の課題整理と目標設定、目標達成のためのDX人材育成計画書の作成と運用について専門家による支援
2. DX人材養成講座の実施  
製造業のDX実現に必要な知識やスキルを身に付け、企業のDX推進の中核を担える人材を養成する講座を実施

### — 研修内容 —

#### ◆DX人材育成計画書の作成支援

参加企業(約50社)を第1期～第4期に分け、全5回の研修を実施しました。

#### 【第1回】DXの戦略思考を身に付けるオンラインセミナー

➢富士通エバンジェリストによる基調講演  
～これから求められるDXの姿とは～



#### 【第2回】DX人材育成ストーリーを考察するワークショップ

- ①自社におけるDX人材の特性を明確化する
- ②DX人材を育てるために必要となる自社内の要素を明確化する
- ③他社との交流により多様な人材育成への想いを把握する

#### 【第3回】顧客体験価値を考え自社の現状を把握するワークショップ

- ①顧客体験価値を中心に自社のサービス向上のアイデアを検討する
- ②DX人材を育成するために自社の特性を把握するための調査書を作成する

### 支援の全体像

【効果①】豊富な実績をふまえたカリキュラムにより、効果的な育成プランを作成できます！！



【効果②】専門スタッフの伴走支援により、支援企業様のDX実現を後押しします！！

#### 《伴走支援の内容》

- ・各社の活動支援(専門家によるアドバイス、事例紹介)
- ・定期的なフォローアップ(電話、メール、訪問ヒアリング)
- ・DX関連補助金の申請支援など



富士通株式会社  
シニアエバンジェリスト  
松本 国一氏

IT全般、働き方改革分野を得意分野とし、年間170回を超える全国各地での講演活動や年間200社を超える働き方改革相談を通じ、IT全般の活用やデザインシンキング・ワークショップを用いた各企業・団体での働き方改革支援活動を実践。



デジタルトランスフォーメーションとはいかなるものか。どのように考えれば良いのか。陥りがちな勘違いなど事例を交えながら、時代の変化によりニーズが大きく変わる現在になぜDXが必要なのか、その本質はどこにあるのかなど、わかりやすくご紹介。

#### 【第4回】DX人材育成計画骨子作成ワークショップ

- ①自社の現状を正しく解釈し意味付ける
- ②DX人材育成計画書の骨子を作成する

#### 【第5回】DX人材育成計画書作成ワークショップ

- ①他者の意見を参考に自社で作成したDX人材育成計画書を改善する
- ②実行可能なDX人材育成計画書となるよう記載内容を精査する

# 《ワークショップ風景》



## オンラインワークショップ



初回のオンラインセミナーおよび各ワークショップ研修においては、当社研修施設（ドリーム・ラボ上伊豆島）を活用し、県内企業から延べ60社(90名)の方に参加して頂きました。

## 人材育成計画書（令和5年度／研修参加企業様作成）

<p><b>目次</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画作成の背景・目的</li> <li>2. 事業戦略・経営戦略との整合性</li> <li>3. 自社におけるDX人材像の定義</li> <li>4. スキル習得の方法</li> <li>5. 効果測定の方法</li> <li>6. 組織的支援策</li> <li>7. DX人材育成における現状と課題</li> <li>8. 体制とスケジュール</li> <li>9. 10年後のビジョン</li> </ol>	<p><b>2. 事業戦略・経営戦略との整合性</b></p>	<p><b>8. 体制とスケジュール</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各営業所1人専任者を決める（12月から）</li> <li>②毎月第3週の水曜日16時から定例ミーティングを行う（12月から） ミーティング内容（課題抽出、対策立案、PDCA）</li> </ol> <p>12月の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロスメディアの活用</li> <li>・安売システムの利用の選択確認</li> <li>・新たなシステムの構築</li> </ul>
--	---------------------------------	--

### ◆DX人材養成講座の実施

本研修と並行して、DX人材育成計画書の作成支援に参加された方々へ、必要なときにいつでもDXに関するオンライン学習が可能なサービス「e講義動画ライブラリ」を提供し、多くの企業様にご利用頂きました。

→140種を超える学習コンテンツで学びながら、自社のDX推進に必要な知識を習得

## e講義動画ライブラリ

～手軽にDXリテラシー習得～

FUJITSU

**e講義動画ライブラリとは**

e講義動画ライブラリは、当社講習会の講義部分を動画化したコンテンツ「e講義動画」全コースをセットでご利用いただけるサービスです。時間に追われながらも最新技術やトレンドを把握しておきたい、といったお客様ニーズにお応えし、**140コースを超える動画コンテンツを1年間の受け放題**でご提供するサービスが「e講義動画ライブラリ」です。DX推進者のロール共通のマインドや知識習得を推進したいケース、あるいはDX推進の前段階として全社のICTリテラシーを高めたいケースなどでもご利用いただけます。

**e講義動画ライブラリの使い方・特徴**

- ① 各カテゴリから好きなものを好きなだけ閲覧できる  
現在提供中の147コース（最新トレンドや超上流からヒューマンスキルまで）から、好きなものを好きなだけ見ることができます。
- ② 必要な部分だけ、辞書的に使うことができる  
自己学習で興味を持った内容や、関連する部分だけ、辞書的に見ることができます。
- ③ 受講者の管理機能で、誰がどのコースを閲覧したかわかる

**e講義動画全コースをパッケージとして、ライブラリ化（2024年3月時点で147コースをご提供）**

デジタルテクノロジー	ビジネス・ヒューマン	業務改善/IT活用	ITソリューションセールス	プロジェクトマネジメント	上流/テスト
言語	Webアプリケーション開発	Webコンテンツ開発技術	システム基礎共通	サーバ	データベース
ネットワーク	ミドルウェア	システム運用管理	セキュリティ	ITサービスマネジメント	組込みソフトウェア技術

研修サービス提供元：株式会社富士通ラーニングメディア [https://www.knowledgewing.com/kw/e\\_Ve\\_kougi/library.html](https://www.knowledgewing.com/kw/e_Ve_kougi/library.html)

© 2024 Fujitsu Learning Media Limited

# 特集 3

## 【『Connect 2022 in Koriyama , with UDC』 ハッカソンで特別賞受賞！】

### (1) イベントの紹介と参加メンバー

9回目となる「Connect 2022 in Koriyama, with UDC」において、エフコムと学生の混成チームが「マイクロソフト賞」を受賞しました！  
テーマは「郡山を代表する鯉を知ろう、食べよう、楽しもう」です。

2022年11月19日(土)～20日(日)の2日間にわたり、郡山市民交流プラザ(ビッグアイ7F)にて開催されました。



当日は鯉まつわる様々なイベントもありました



#### 参加メンバー

Mさん：マネジメント  
Eさん：プログラミング  
Nさん、Aさん：企画  
Yさん、Wさん、学生Yさん：デザイン

### (2) 作成したアプリケーションについて



#### 鯉のテーマパーク 鯉っちゃん？

#### 鯉のテーマパーク「鯉っちゃん？」

鯉について知る、食べる、楽しむを「メタバース」上に表現したサービス。メタバース上の各コンテンツをアプリとして構成し、鯉の魅力を幅広く発信する空間を提供します。



知る



食べる



楽しむ

### (3) コメント

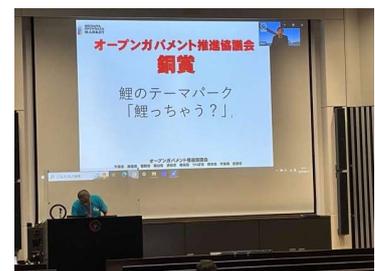
課題抽出、原因分析、対策検討まで全てがハードルの高いハッカソンでした。何を伝えればより高い評価を残せたか、いまだに悩む事があります。

当時検討をはじめていたメタバース活用での提案を示せた事が良い経験です。

改めて、社会の動きに日々アンテナを立てながら仕事に取り組む必要があると感じています。

### (4) UDC2022での受賞について

当作品は「UDC2022 with 土木学会インフラデータチャレンジ2022」においても「オープンガバメント推進協議会賞 銅賞」を受賞しました。



東京大学駒場リサーチキャンパスで行われた表彰式

# 特集 4

## 【健康オンラインセミナー2023 を開催しました！】

社員の健康促進イベントとして、ドリーム・ラボ上伊豆島にて健康オンラインセミナーを開催しました。当日は、エフコムBCでもお世話になっている整骨院の先生をお招きし講師として90分間講義をして頂きました。午前中にも関わらずZoomで繋いだ全8拠点より多くの方に参加頂きました。

### 講義内容

呼吸方法をはじめ、猫背姿勢、血行促進、肩こり、腰痛など普段デスクワークが多いシチュエーションで役に立つ知識を学ぶことができました。

講義中は、座学だけでなく椅子に座りながらでもできる運動など実践も交えて講義をして頂きました。

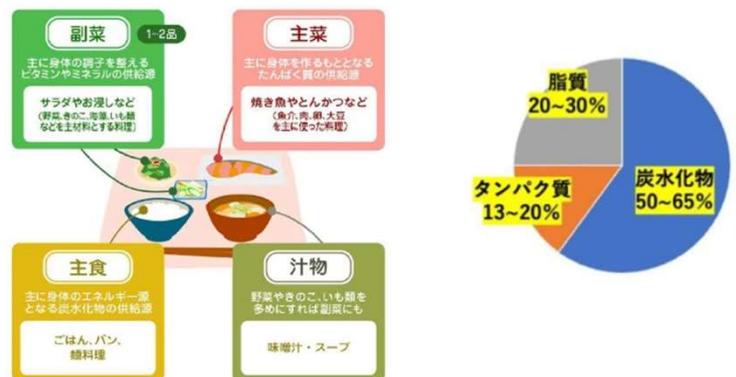
日常でも効果的に体のメンテナンスができるとても楽しい講義でした。



エフコムBC  
トレーナー  
ボディクト整骨院 尾形 様

### 食事について

健康の基本は、食事にあります。現代の日本人は、とても脂質の量が増え食物繊維の量が減っているそうです。『ま・ご・わ・や・さ・し・い+たまご』を頭に入れバランスのとれた食事を心がけることが重要だそうです。聞いている皆様も真剣に講義を聞いている様子でした。食事を見直すいい機会になりました。



### 今後の活動について

今回は、講師を招いてのオンラインセミナーを開催させて頂きましたが、春には、ウォーキングイベントも開催する予定となっています。健康WGとして健康を第一にし、エフコムBC、F-nineWGとも連携しながら社員が楽しく健康に楽しむ企画を今後も検討、開催して参ります。

# 地域への貢献（地域社会とともに）

## (1) エフコムBC（ベースボールクラブ）



ベースボールクラブ  
HP

エフコムBCは、2021年3月から新たにスタートしたチームです。エフコム社員を中心に各企業のメンバーが集い、福島県伊達市を本拠地としています。高校や大学を卒業後も志を持つ野球人が「野球でも仕事でも輝く」をスローガンに切磋琢磨し、常にチームや職務における頂点を目指して研鑽を積んでいます。

### 次世代の地域社会を担う社会人の育成



### 野球で福島を元気に！

繋げよう絆・広げよう地域の輪

社会経験豊富な選手、野球を学問として勉強してきた野球人が地域に根付き、次の世代を育てていく環境への貢献。

また、「野球で福島を元気に！」をモットーとして、福島県の野球レベル向上、更には地域社会を担う人材の育成など、そんな循環型の仕組み作りも目標の1つとして取り組んでまいります。





## 2023年度シーズン 大会成績

- 【5月】 JABA福島市長杯争奪野球大会 準優勝  
都市対抗野球一次予選福島県大会 優勝
- 【6月】 都市対抗野球二次予選東北大会 第2代表戦で1勝
- 【7月】 JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会 ベスト4
- 【9月】 JABAスポニチ福島支局杯社会人選抜野球大会 優勝
- 【10月】 JABA毎日新聞社杯社会人選抜野球大会 優勝



シーズン初戦の福島市長杯争奪野球大会はチーム7連覇が懸かった大会。今年から7イニング制となり臨んだ決勝は流れを掴み切れず先制点を許す展開、中盤同点に迫りついても先に決勝点を奪われ準優勝での発進となりました。

10日後の都市対抗野球一次予選福島県大会は順調に勝ち進み連覇を果たします。満を持して向かった秋田市での都市対抗二次予選東北大会は初日を含め2日間の雨天順延。一回戦は早々に先制したものの逆転負け。第二代表トーナメント戦はエフコムBC初の勝利を8対0の完封で飾りました。この頃からグラウンドの選手とベンチのメンバーが一体化して、勝利に向かって突き進む結束力が感じられるようになりました。しかし、それも束の間、目標としていたクラブ野球選手権県大会では初戦敗退の挫折を味わいました。

モチベーション維持も危ぶまれた一関市長旗争奪クラブ野球大会では、転んでもタダで起きない精神が全員に宿り屈辱を晴らす活躍で関東の強豪相手にベスト4をつかみ取り、更にチーム立て直しの一環で関東遠征を挙行し全国クラスの相手に胸を借りました。試合毎にメンバーそれぞれが反省や課題を口にして練習に活かし、その結果スポニチ福島支局杯社会人選抜野球大会では足を絡めた攻撃も加わって優勝、続く毎日新聞社杯社会人選抜野球大会と共に3連覇を勝ち取りました。



## (2) 職場体験学習活動

郡山第六中学校2年生17名の皆さんをドリーム・ラボ上伊豆島に迎え職場体験学習活動を実施しました。システムエンジニア、サービスエンジニアの職種と仕事内容、そしてエンジニアに求められるスキルはどのようなものかを紹介しました。目をキラキラさせながらたくさんの質問をいただき、エンジニアに興味を持ってもらったことが何よりも嬉しく感じました。仕事の現場を直接見て触れて感じることを通じて、驚きや発見、進路・職業選択について視野と関心の幅を広げる機会になればと思います。



## (3) ごみ拾い活動について

社員間におけるコミュニケーションの促進と、日頃の運動不足解消も兼ねて、有志によるゴミ拾いウォーキングを実施しています。福島市・郡山市の各事務所にてそれぞれ定期的に行われ、2022年度には計33回、延べ459名が参加しました。

2022年2月からは、福島市が認定する「ふくしまきれいにし隊」という取り組みに参加し、参加者が安心して長く活動に取り組めるよう、活動を行っています。

### 【ふくしまきれいにし隊とは？】

「ふくしまきれいにし隊」とは、市民の皆さんと市が協働で進める「アダプトプログラム」で、市民の皆さんがボランティアとして「もっと、まちをきれいにしたい」という気持ちで道路や公園などの清掃をおこない、市がそれを支援していくものです。

アダプト (ADOPT) とは、「養子縁組」という意味です。

「アダプト・プログラム」は、市民のみなさんが「里親」で、道路・公園・河川などの一定区画を「養子」にみたと、愛情と責任をもって美化（清掃）活動をおこない、市がこれを支援することです。

【出典】福島市HP

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/kankyo-eisei/machizukuri/shizenkankyo/kankyoese/poisute/1136.html>



# 人を育む【エフコムの塾】

当社の重要な経営資源である『人財』が活躍するための塾を定期的を開催しています。お客様のニーズにお応えするため、開発やプロジェクト管理スキルだけではなく、ヒューマンスキルの向上にも重点を置き、『人間力』の向上を目的に社員自らが講師となり、チームで成長できる取り組みを推進しています。

## 【教育方針】

- ◆企業理念と行動指針に基づく自発的行動と統制のとれた組織体作りを目標とする
- ◆上司・部下が行動、能力、業績の目標を共有し、それらを成長指標とする
- ◆自己啓発と自立型人材の育成を目指す

## ◆エフコムスマイル塾(F-minine活動)

エフコム内女性WG「F-minine活動」が中心となり、全社員に向けて健康やキャリアデザイン、美化活動など職場環境改善へ取り組んでいます。

## ◆SE塾

例年プロジェクトを成功に導くための基本知識や経験を伝えるPM塾と若手育成を目的とし開発基礎知識を深めるよう取り組むSE塾を開講しておりましたが、今年度よりSE塾に統一し、各部署ごとに取り組んでいる先進事例、スキル、トレンドを捉えた講座とし、個人のスキルアップとSE同士のつながりを強化し組織全体のレベルアップを図るよう見直しは図りました。

## ◆こころ塾

『こころを込めて育成に取り組む』  
『こころのこもったお客様対応を』  
を実現するために必要なヒューマンスキル、ソリューションスキルの向上に取り組んでいます。

## 【社内教育制度体系図】



## そんな数ある塾の中から、今回はエフコムスマイル塾の活動をご紹介します

### ◆はじめての「お金の育て方」セミナー開催

F-m i n i n e W Gの活動目標である「情報共有・情報発信」の場として、マネーセミナーを開催致しました。今回は、過去2回開催し好評いただいたマネーセミナーの第3弾です。外部より講師をお招きし、本社大会議室、他拠点会議室およびZoomのウェビナー形式を利用し、約90名近い社員が参加しました。「新NISA」や「ふるさと納税」といった、資産運用の種類や方法など、気になるポイントを分かりやすく説明していただきました。



セミナーの受講風景

#### 【講座内容】

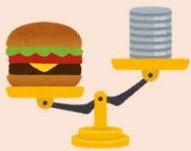
～資産運用コトハジメ～

- ・あなたにとって「お金」とは
- ・資産を増やす方法？新NISAとは？
- ・個人ができる節税対策  
(ふるさと納税の仕組み・源泉徴収票の見方等)



運用リスクを知り、  
早いうちからこつこつと分散して自分にあった運用を  
みつけること！

#### 💡ポイント



物価の上昇により  
資産が目減りする  
ことがある



資産形成は長期的  
な視点で考えま  
しょう



手取りから資産運  
用に使えるお金を  
考えてみましょう



目的と期間から資  
産運用の方法を考  
えましょう

### ◆活動について

エフコムスマイル塾では、上記以外にも男女ともに参加可能な「女性のカラダ」に関する女性特有の問題についてのセミナーを今年度開催しました。今後の活動についても全社員を対象にワーク・ライフ・バランスに関する内容、人権に関する内容など、専門家の方のお話を聞くことができる講座を企画しております。少しでも多くの社員の方に参加していただき、働きやすい職場環境を目指して、社員が生き生きと活躍できる活動基盤構築のためにF-m i n i n e W Gでは今後も様々な活動・講座開催を進めて参ります。

#### 【開催を検討している講座】

- 女性が生き生き働き続けるために
- ハラスメント防止のための基礎知識と相談対応のポイント
- ワーク・ライフ・バランス～生き方・働き方を考える～
- 椅子ヨガ、エクササイズ
- メンタルヘルスセミナー

など



# 森を育む【エフコムの森】

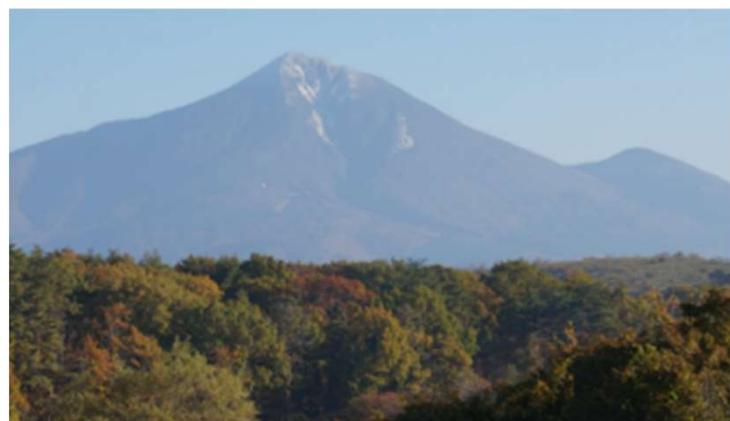


## ロケーションの紹介



- 所在地：会津若松市河東町
- 広さ：44.5ha(東京ドームの9.5倍)
- 樹種：針葉樹と広葉樹の混合林

磐梯山の南西山麓のとても静かな場所にあるのが、エフコムの森です。この森の意味は、環境共生に積極的に取り組む事で森の再生を目指しながら、社員やその家族の憩いの場として親んでもらう事にあります。森は針葉樹、広葉樹からなり、小川や沼もあるまさに憩いの場としては最高のロケーションです。



## 柏(かしわ)の木は百年続く企業の守り木

エフコムの森の広葉樹はコナラが多勢を占めます。その中で柏の木も比較的多く、翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物として柏餅に用いられています。端午の節句に柏餅を食べるのもその由縁です。

百年続く企業を目指すエフコムにとっては正に縁起ものであり、大切にしていきたいと思えます。



## 憩いの場としての活用

社員の憩いの場として活用することを目的として、エフコムの森では、定期的にイベントを開催しています。

2021年9月には山小屋(トイレ完備)も新設された為、社員だけでなく、家族を対象にしたイベント等も積極的に開催し、より一層の活用に向け取り組んでいきたいと思えます。



## 水が豊富

エフコムの森には小さな綺麗な小川が流れており、いずれは水芭蕉とホタルが飛び交う環境へ再生したいと思います。ホタルが住む環境を維持する事もかなり大変な努力が必要ですが、皆で頑張ります。



## 木の実が豊富

木の実が豊富なのは森が豊かな証拠です。また、動物達を呼ぶ事になるので自然の回生が働き、更に森が豊かになります。





## 桐の植樹祭の様子

■豊かな森を作るための活動の一環として、2019年から新入社員による桐の植樹祭を毎年開催しています。厳しい寒さと豪雪が特徴的な気候である会津で生み出される「会津桐」は、緻密で美しい年輪を備えた光沢が特徴であり、全国の桐材のおよそ4割が福島県産といわれています。

《2023年の植樹祭の様子》



## エフコムの森 やま学校の様子

■毎年秋に、エフコムの森活用イベントとして「エフコムの森やま学校」を開催しています。講師に本職のきこりさんを招いて、きこりさんによる樹木伐採の見学、チェーンソー体験、まさかりでの薪割り体験、ロープを使ったツリーイング、スウェーデントーチでの焼きマシュマロ・ポップコーン作りなど、多様な活動を行っています。参加者からは、普段の生活では体験できない森での作業を体感できると毎年大盛況です。

《2023年のもり学校の様子》



木に吊ったブランコで  
ゆらゆら



チェーンソー体験



焼きマシュマロ作り



スウェーデントーチでポップコーン作り



参加者全員で記念撮影

# 共に育む【エフコムの輪】

## (1) 「一般社団法人 ふくしま地域振興研究所」の活動



2017年7月、会津地域を中心に福島県の地域振興を図るため、会津地域の企業及び富士通株式会社との協業にて、福島県河沼郡柳津町に一般社団法人あいづ地域振興研究所を設立しました。

そして2022年6月、福島県における地域創生と貴重な地域資源を活用したサステナブルな魅力あふれるまちづくりを推進し、地域振興と経済好循環の確立に寄与することを事業目的として、法人名を一般社団法人ふくしま地域振興研究所に改称し、新たな企業やメンバーの参画を得ると共に事務所を福島市内に移転しました。

### ◆主な活動項目

- (1)地域振興に関する施策の調査研究事業
- (2)地域の経済活動を活性化させる施策の実施に関する事業
- (3)地域の名産物及び特産物の開発と販売の支援に関する事業
- (4)地域振興に資する事業体への投資
- (5)再生可能エネルギーの普及拡大への支援
- (6)ふるさと納税（寄付）額の増崇支援
- (7)観光の促進支援
- (8)風評被害の払拭支援
- (9)地域文化の活性化支援（映像等）
- (10)その他当法人の目的を達するために必要な一切の事業

### ◆これまでの主な活動実績

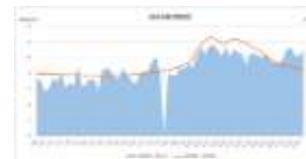
- (1)地域振興に関する施策の調査研究事業
  - ・ 関連企業（富士通他）との連携（2017年度～）
  - ・ 関連団体（会津地方振興局他）との連携（2019年度～）
- (2)地域の経済活動を活性化させる施策の実施に関する事業
  - ・ ICT/IoT活用による酒米高品質化事業（2018年度～）
- (3)地域の名産物及び特産物の開発と販売の支援に関する事業
  - ・ 第1回中国国際輸入博覧会での会津産品初出展（2018年度）
  - ・ 6次化事業支援のセミナーや相談会を開催（2023年度）
- (4)地域振興に資する事業体への投資
  - ・ 柳津観光船(株)様へ出資（2017年度）
- (5)ふるさと納税（寄付）額の増崇支援
  - ・ 新商品企画や写真の訴求力向上、返礼品同封カード作成等（2022年度）
- (6)その他当法人の目的を達成するために必要な一切の事業
  - ・ 只見線の復旧・復興を応援（2019年度～）
  - ・ 会津地域のサステナビリティを応援（2020年度～）



### サステナビリティ



IoT水門の設置



データ分析

### 博覧会への出展



### 只見線復旧・復興



ごみ収集庫

## (2) 「ふくしま創生 創・蓄・省エネルギービジネス創出研究会」の活動

地球温暖化や震災、原発問題等を受け、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会に向けての取り組みが、世界的な課題となっております。

当研究会は、『創エネルギー』、『蓄エネルギー』、『省エネルギー』の3分野におけるビジネスを、福島県において創出することで、上記課題の解決から福島の創生につなげるべく、2015年4月14日（火）に設立されました。

福島県内の産・学・官の各界から広く集った有志のもと、産業分野の会員が運営・活動資金を拠出し、補助金等の外部資金から自立した活動を主導する形で運営しております。

研究会内外の事例や知識、ノウハウをもとに、再生可能エネルギーの創造と、その特性に合う蓄エネルギー、省エネルギービジネスの創出に向けた取り組みを進めています。

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



### 目指せ、福島発の エネルギービジネスの創出！

#### ◆活動事業

1. 創・蓄・省エネルギー関連ビジネスの創出
2. 創・蓄・省エネルギー関連雇用の創出
3. 創・蓄・省エネルギー関連技術者の育成
4. その他、目的達成に必要な事業及び研究

#### ◆2023年度活動

- ・6月総会及び定例研究会（講演会）【創エネ】
- ・9月小水力発電所（郡山市）視察【創エネ】
- ・1月産総研FREEA（郡山市）視察・勉強会【創エネ・省エネ】

#### ◆2024年度活動予定（一部）

- ・4月古河電池今市事業所（日光市）【蓄エネ】



## (3) 「情報セキュリティ研修」の紹介

情報セキュリティ教育とは、経営資源のひとつである「情報」（顧客情報、機密情報、技術情報など）を守るために社員を対象として行うリテラシー教育のことです。情報流出と聞くと、マルウェア感染や不正アクセスなど、外部からの悪意ある攻撃を思い浮かべますが、実は情報セキュリティにおける問題は、人為的なミスで生じる場合がほとんどです。また、メールやフィッシングサイトなどの人間の脆弱性を狙った攻撃は、情報セキュリティ教育の徹底でしかリスクの低減は難しいといえます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、テレワークやオンライン授業が実践されるなど、社会のデジタル化が急速かつ強制的に進展、それに伴い情報セキュリティ事故の発生も増加しています。

情報セキュリティ事故の原因はさまざまですが、各々のセキュリティ意識（セキュリティ・リテラシー）を高めることで、未然に防ぐことができます。

本研修では、実際に起きた情報セキュリティ事故事例をご紹介するとともに、個人がどのような心がけをすれば情報セキュリティ事故を防ぐことができるのかを学んでいただきます。

#### 研修内容

1. 情報セキュリティ事故・事例から学ぶ
2. セキュリティ10大脅威2022から学ぶ
3. 被害の当事者にならないための心がけ
4. まとめ



情報セキュリティ事故は、  
**企業の存亡**に  
かわる場合もあります。

業務の一時停止

事故対応費用

損害賠償

社会的信用の低下

行政処分・罰金等

従業員への影響

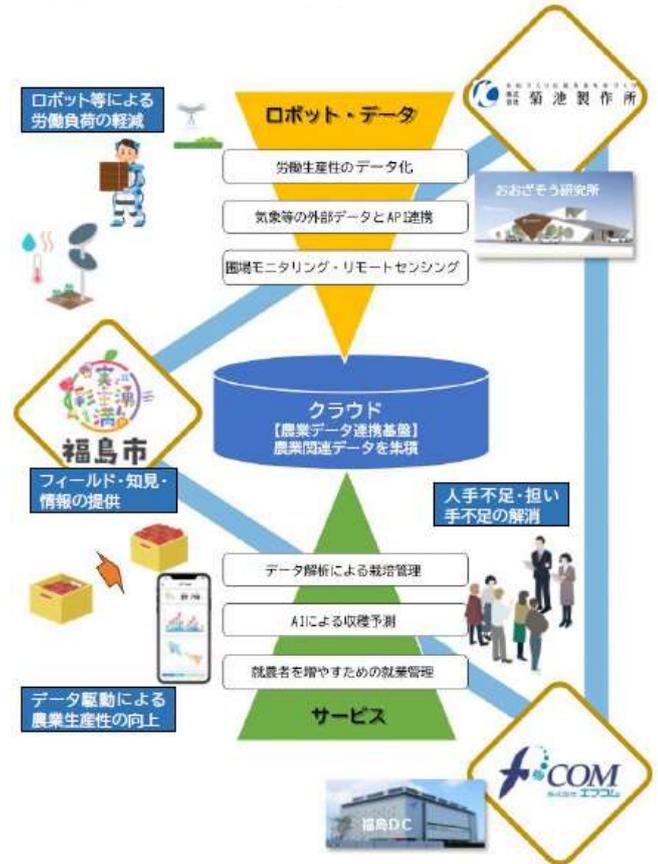
## (4) 福島市様・菊池製作所様との包括連携協定

ロボットやデジタル技術を用いた先進的なスマート農業、地域活性化などを進めるため、2023年9月27日、福島市役所にて3者での「包括連携協定」を締結しました。

協定を機に、両社の製造技術やデジタル技術の強みを生かし、地域全体の農業振興に取り組みます。両社の事業所がある福島市で、ロボットやICTを果樹栽培などに応用し、農家の作業負担軽減や人手不足解消、生産性向上を狙います。また、ベンチャー企業や地元企業へのDX支援、デジタル人材の育成、防災分野でのドローン活用も連携していきます。



～連携イメージ（スマート農業）～



## (5) 「答べんりんく(Touben LinQ)」の紹介

「答べんりんく(Touben LinQ)～議会答弁検討システム～」は、地方公共団体の議会における質問取りから答弁検討までをオンラインで一元管理するシステムです。サブスクリプション型のクラウドサービスのため、個別のサーバ導入が不要で、契約後すぐにご利用頂けます。Web画面からオンラインで情報が更新され、複数の職員が入力した議会日程や質問内容、担当部局の割り振り、答弁の原案作成から修正、承認まで一連の流れをリアルタイムで共有することで、答弁書作成にかかる事務処理の効率化を図ることができます。

令和4年12月から福島市での試験運用を経て、令和5年4月より全国に向けて販売を開始しました。

### 4つの特長

- 1. 全関係者が質問・答弁の進捗状況をリアルタイムに共有**  
オンライン更新で、更新状況をタイムリーに把握。  
答弁作成／承認／差戻のタイムスタンプを表示し、進捗を見える化。
- 2. ワープロや表計算、紙による管理の手間を削減**  
質問と答弁は、リアルタイムにクラウドサーバ上で一元管理。PDF出力でペーパーレス化を実現。紙印刷削減により経費も削減。
- 3. 過去議会も含めた膨大な答弁書データを保持**  
過去議会も含めた答弁情報もデータベースに保持し、同一システムで参照可能。過去議会データを蓄積したナレッジより類似質問の有無や答弁内容を検索し、答弁作成を支援。
- 4. クラウドサービス（Internet/LGWAN）低コストでスムーズな導入**  
クラウドサービスのため、個別でのサーバ導入が不要になり低コストかつ短期間の導入を実現。  
サブスクリプション型サービスのため、契約後すぐにシステム使用が可能。

答べんりんく

Touben LinQ

登録商標 登録第6698199号

質問  
取り

答弁  
作成



答弁  
検討

## (6) 「獣(じゅう)マップ」の紹介

### 【鳥獣害対策の現状】

近年、福島県内でも野生鳥獣による農業被害が拡大しその被害額は高止まりしています。福島県における2022年度の農作物被害額は、総額で119百万円となっており、全国での同年度農作物被害額は、総額で15,563百万円となっています。

被害対策の基盤となる情報管理について、農作物被害が発生している「場所」や「被害状況」、捕獲目的の罠の「設置位置」や侵入防止柵の「設置エリア」、捕獲や目撃、観測結果の「獣種や場所」などがあります。これらの情報は自治体の各担当部署に散在していることも多く、一元的なデジタル化がなされていないため、関係者間（県－市町村－地域対策実施隊－地域住民）での情報共有や被害対策につながる分析が困難な状況となっています。

2019年度から鳥獣害対策に係る課題を解消すべく、ICT、AI、IoT、デジタルを用いた実証実験を福島大学や会津大学と推進してきた中で、開発されたのが「獣(じゅう)マップ」です。

各市区町村における鳥獣害対策のさまざまな情報をICT技術を用いてWebサイト上に可視化することで、「地域住民」⇔「地域対策実施隊」⇔「地方自治体」での情報共有や効率的な連携を可能とし、対策の効率化・データの蓄積／分析・持続的な管理など様々な用途で効果を発揮します。

◇2022年11月リリース

◇監修：国立大学法人福島大学 農学群食農学類  
望月翔太准教授

◇特許出願中：整理番号：P20210840  
出願番号：2021-199640



## (7) 郡山市教育委員会様との協定締結

2023年7月24日(月)、弊社ドリーム・ラボ上伊豆島「未来の教室」「郡山市内小中学校様」を起点とした郡山市教育委員会様との連携協定「学校教育の課題の解決及び令和の日本型学校教育の実現に関する協定」について締結式を行いました。

「学校教育の課題の解決及び令和の日本型学校教育の実現に関する協定」という名のもとに主に、以下の点についての協創を図っていきます。

- (1) ICT教育に関する情報の共有・研修会の実施
- (2) ICT教材(ハード・ソフト)に関する実証研究
- (3) ICT教育に関する情報収集及び  
それに対する情報提供

- (4) その他甲及び乙が合意した事項

今後、ICTを1ツールとして「子供たちの未来のために」何が出来るか?を郡山市教育委員会様と共に検証していく予定です。



# 信頼への取り組み

## (1) 品質向上 (ISO9001) への取り組み

当社のシステム部門は、ソフトウェア開発サービスを行う情報サービス業として、品質の重要性を認識し、2001年10月に品質マネジメントシステム (QMS) を制定しました。

2002年6月に、財団法人日本品質保証機構のJQAマネジメントシステム登録の公表と登録マーク使用の認定を受けましたが、2010年3月より日本検査キューエイ株式会社に認証機関を変更し、2018年7月には2015年版適用規格に変更認定されました。また、2021年度には公共ソリューション部、2023年度にはドリーム・ラボ上伊豆島を登録範囲に加え、より一層の品質向上への取り組みを図っております。

登録組織：株式会社エフコム システム本部

登録範囲：顧客要求仕様に基づくソフトウェアの設計及び開発・導入

(要員派遣・設計開発を伴わないお客様をフォローするための保守・アウトソーシング業務は除く)

登録範囲に含まれる事業所：

システム本部 (郡山本社) / JAオフィス / ドリーム・ラボ上伊豆島 /  
株式会社エフコムマーケティングソリューション事業本部 自治体ソリューション部、産業ソリューション部、イノベーションシステム部

品質マネジメントシステムの目的は、登録組織のプロジェクトおよびプロセスに対して適用され、品質の作り込みと維持活動を継続的に行うことにあります。製品やサービスの品質を継続的に改善し、これまで以上にお客様にご満足いただけるよう努めております。

## (2) 情報セキュリティマネジメント (ISO27001) への取り組み

当社のシステム運用部門は、2000年に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を制定し、2003年9月にISMS (Ver 2.0) の認定を取得、2007年9月にISO27001への移行認定を受けました。

認定規格は当社のDCサービス部、インフラサービス部の基盤運用およびシステム運用に係わる福島データセンター、会津iDCの業務、要員に適用され、認定に基づく情報セキュリティマネジメント活動を日々行っています。

また福島データセンターは、FISC安全対策基準 (設備基準) の認証を受けています。

登録組織：福島データセンター、会津iDC

登録範囲：受託計算サービスの運用、ホスティングサービスの運用、  
ハウジングサービスの監視、クラウドサービスの運用

ISO27001を取得することで、お客様の情報資産を様々なリスクから守り、安定した運用サービスを提供いたします。



REGISTERED ORGANIZATION

No. 4177-ISO9001

システム本部  
郡山本社 / JAオフィス /  
ドリーム・ラボ上伊豆島



REGISTERED ORGANIZATION

No.1247-ISO/IEC27001

福島データセンター  
会津iDC

### (3) ITサービスマネジメント (ISO20000) への取り組み

当社福島データセンターのシステム運用部門は、2014年にITサービスマネジメントシステム (ITSMS) を制定し、2015年3月にISO/IEC20000-1の認定を取得しました。ISO20000は、お客様のニーズとビジネス要求に合致したITサービスを提供するための一連の仕組みが備わっていることを証明する認証資格です。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるハウジングサービス



ISO20000を取得することで、当社ITサービスに対するお客様の信用・信頼を高めサービスの満足度向上に取り組んでいます。

### (4) クラウドサービスセキュリティ (ISO27017) への取り組み

当社のクラウドサービスは、2019年9月に「ISMSクラウドセキュリティ認証 (適用規格: JIP-ISMS517-1.0)」への適合認定を受け、クラウドセキュリティの国際規格となるISO/IEC27017の認証を取得しました。

この規格はクラウドサービスの普及によりクラウド環境のセキュリティ対策の重要性が高まる中で、ISMS情報セキュリティマネジメントシステムをベースにクラウドサービス特有の情報セキュリティ対策にフォーカスした管理策が示されており、当社はこれに準拠したクラウドサービスの運用管理を実施しています。



登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるクラウドサービスプロバイダーとしてのIaaSサービスの提供

- ・エフコム コミュニティ クラウド
- ・エフコム プライベート クラウド

ISO27001に加えISO27017を取得することで、クラウドサービスのセキュリティ強化につなげ、お客様へより安全で安心なクラウドサービスを提供いたします。

### (5) 個人情報保護 (Pマーク) への取り組み

当社は1998年10月に個人情報保護マネジメントシステム (PMS) を制定し、1999年2月、一般財団法人日本情報経済社会推進協会のプライバシーマーク付与認定を取得いたしました。また、プライバシーマーク制度は発足から2023年で25周年を迎えましたが、当社が制度創成期からPマークの適格を維持していることが評価され、同協会より表彰を受けております。

当社のPマークの適用範囲は、役員、正社員、契約社員、パート・アルバイトと派遣社員を含む全従業者、部署、拠点においても全社を対象としています。

事業カテゴリである受託開発業務、パソコン・サーバ等を含む情報ソリューションの提供及び保守、アウトソーシングサービス、パソコン講習などにおいて多くの個人情報を取り扱っており、早くから情報保護の重要性を認識した取り組みを実施してまいりました。プライバシーマークの維持は、社内管理や運用の更なる強化をねらいとし、その活動で有用に機能しています。

また、情報サービス業を営む企業として、社会的立場からも本取り組みの意義を理解の下、個人情報保護マネジメントシステム (PMS) に沿った管理・運用体制の整備と共に社員と事業の用に供している個人情報の全てについて適切な取り扱いに努めております。

引き続き、各種関連法の改正対応や社会情勢の変化も考慮して、個人情報保護活動の遂行と顧客満足度の向上を図ってまいります。



11820024

# データセンターが貢献する サステナブル社会

## (1) データセンターの紹介と環境負荷低減

福島データセンターは CO<sub>2</sub> 排出量を抑制し環境への負荷軽減を図るために、電力消費量を抑える取り組みを実施しています。

データセンターの消費電力の約3割はサーバの排熱を処理する冷却に使用されるのが通説となっており、いかに冷却効率を高めるかが消費電力を抑えるポイントとなっています。福島データセンターはサーバの排熱を完全に密閉し排熱だけを冷却するHACS(Hot Aisle Containment System)を導入し冷却範囲を局所化する事により冷却効率を高めています。合わせてDCIM(Data Center Infrastructure Management)との組み合わせにより、排熱量により空調ファンの回転数を最適に制御する仕組みや水冷式空調機の導入で消費電力を削減する仕組みも導入しています。寒冷地のロケーションを活かし空調機の冷媒を外気で冷却するフリークーリングシステム、太陽光発電の活用、敷地の緑化など様々な取り組みにより環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 【福島データセンター概要】



立地：福島市、敷地面積 (9,614㎡)  
建屋：3階建て、免震、延床面積 (3,216㎡)  
設備：高規格仕様 (高い「信頼性・安全性・可用性」)  
J-Tier 4 相当  
環境：再生可能エネルギー採用、省エネ設備

#### <主な認証>

- ・ISO/IEC 27001
- ・ISO/IEC 27017
- ・ISO/IEC 20000-1:2011
- ・プライバシーマーク
- ・FISC安全対策基準 (設備基準)
- ・LGWAN-ASPファシリティサービス登録事業所
- ・医療情報システムに関する安全管理ガイドライン準拠
- ・総務省：届出電気通信事業者 1-12-366

### 太陽光発電



太陽光発電をサーバールームで消費

### HACSシステム



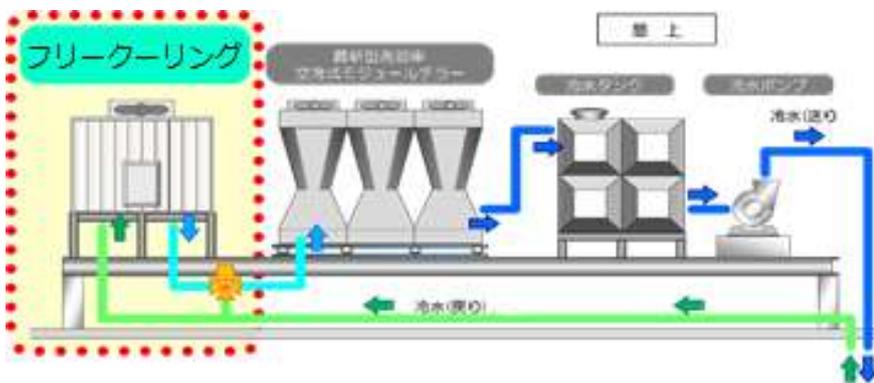
水冷式空調を採用しホットアイルを完全密閉したモジュール型ラックを採用

電力コストは、お客様の負担にもつながります。  
高効率な空調機とフリークーリングの活用により、環境にも、お客様のビジネスにもやさしいデータセンター、それが福島データセンターです。

## 排熱の封じ込みとフリークーリングで、高効率で自然環境にやさしい冷却システムを実現

自然環境にやさしいデータセンターを実現するため、東北地方の寒冷な気候を生かしたフリークーリングや太陽光発電などを取り入れてます。自然エネルギーを最大限に活用することで、CO<sub>2</sub> 排出を可能な限り削減しています。データセンター全体の電力消費量の中で冷却の消費電力量は大きな割合を占めます。そこで、高効率な冷却システムを導入することで電力効率としては、PUE 1.3 を目標に排熱の封じ込めと水冷式空調機を採用しました。

フリークーリングシステム



フリークーリング(Free Cooling)とは、外気温度の低い中間期、冬期に冷却塔で水冷媒を外気使い冷却。その後チラーで電気を使い定格温度まで冷却することから大きな省エネルギー効果が期待されます。

## (2) データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について

新型コロナウイルス感染症発生の初期段階で各社の対策や社員が罹患した際の対応方法などをC P S (FUJITSU Collaboration Place Services) を使用し、情報収集及び共有を行い対策の妥当性確認や気付きを促し会員各社の対策強化に貢献しました。また、2020年4月に任意出席ではありますが、W e b 会議を用いて各社の状況や対策を再度共有し、更なる対策強化を実施しました。

現在は感染症の蔓延によりW e b 会議を活用したコンソーシアム活動にシフトしており、2021年3月のブロック長会議では部会長退任に伴うコンソーシアムの推進、運営方法などについて協議、検討しました。また、4月に全体会議を開催し、運営方法の情報流通、各社の現状共有、及びコロナ禍においてコンソーシアムに求める事などへの意見交換を行い今年度の進め方について合意しました。

2021年8月には約2年ぶりとなる東ブロック会議を開催し感染症対策の新たな情報共有を実施するとともに、ガバメントクラウドやD X 潮流など今後の地方データセンターの在り方についても各社と意見交換を実施しました。

今後も新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら集合形式、W e b 形式など会議体を選択しながらブロック会を開催し各社のB C P 向上、顔が見える関係性を維持できるよう取り組みます。

当社は東ブロック長及び全体運営を担うブロック長会議のメンバとして今後もコンソーシアム運営に主体的に取り組み、会員各社のB C P 向上に貢献してまいります。



### (3) 大型ロール紙プリンタ活用によるサービス展開

大型ロール紙プリンタでは、帳票のプレプリントと個人毎のデータを同時に印字します。このため、プリントサービスのコスト削減や短納期を実現するとともに、必要な量を必要ときに印刷することができるため、カーボンオフセットへの貢献につながります。

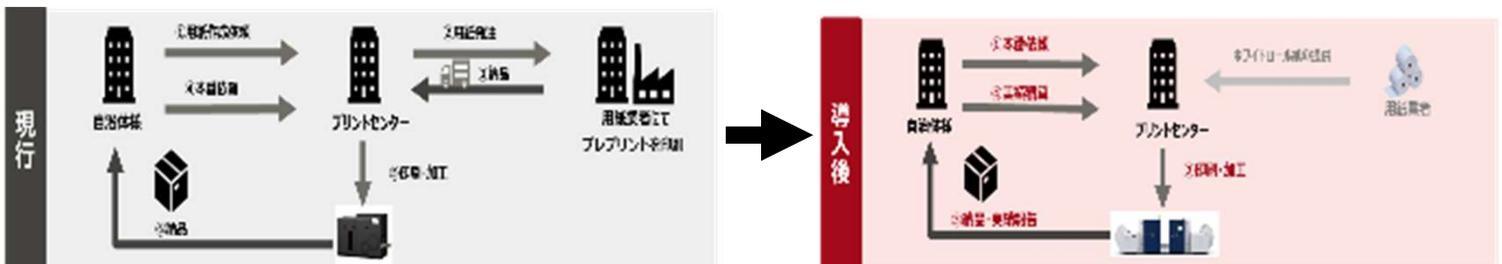
#### ■ 印刷業務の効率化（専用用紙調達からロール紙調達へ専用紙在庫が不要）

##### 【導入前】

- ▶ 同じ自治体でも税目ごとに帳票レイアウトが異なる為、税目毎に用紙の発注が必要となります。
- ▶ また、法改正や年度が切り替わる度に帳票レイアウトを変更し新たな用紙を発注しなければなりません。

##### 【導入後】

- ▶ 大型ロール紙プリンタでは、プレプリントとデータの印字を同時に行うため、作業前の用紙の大量保管が不要になり、用紙素材が同一であれば複数税目でロール紙を共有する事ができます。
- ▶ データにて帳票デザインを作成・管理するため、データを変更するだけで用紙校正が可能です。
- ▶ 今まで用紙校正にかかった時間を低減し、レイアウトを変更する度に発生した不要在庫を削減できます。



#### ■ 印字品質の効率化

##### 【導入前】

- ▶ 今までのNLPでは、トナー付着不良による印字欠けや濃度不良が懸念されていました。印字が欠けてしまいバーコードが読めない、印字が剥がれてしまう等の問題を防ぐため、印刷完了後は作業による目視確認を実施しております。

##### 【導入後】

- ▶ 大型ロール紙プリンタでは、プリンタ内部に設置された複数のラインカメラより印字直後の帳票を読み込み、印刷を行いながら複数検査を自動で実施します。
- ▶ 画像検査装置にて出力するデータとラインカメラ（光の量をビデオ信号に変換して出力）で読み込んだ映像の照合を行い、文字欠け、印字ずれ、汚れを検知するとともに各種バーコードの読み込み検査が可能です。



#### ■ SDGsの取り組み

- ▶ 大型ロール紙プリンタを導入することで、前述の「廃棄用紙の削減」や「用紙の輸送機会の低減」等使用するエネルギーを削減します。
- ▶ 一般社団法人 日本印刷産業連合会によって制定された「グリーンプリンティング認定制度」に適合した大型ロール紙プリンタであり、環境汚染物質の削減や省資源・省エネルギー等環境配慮を示した最も高いスリースターを獲得した製品となります。

# ビジネスインフォメーション

## System Integration 導入システム企画

豊富な業務システムの構築経験を活かし、システムのライフサイクルに基づく最適化をサポートいたします。お客様のニーズにお応えできる専門家集団として、企画・構築・運用をトータルにご支援いたします。



## Cloud Service クラウドサービス



最先端のICTと長年培ってきた業務ノウハウから生み出されたビジネスプラットフォームです。従来の枠を超えて、お客様の事業革新とビジネス加速をご支援いたします。

## Software Design ソフトウェア開発

多くのソフトウェア開発実績を保有します。IoTによるデータ解析やモバイルデバイスの新たな活用など、先端システムへの対応もいたします。



## Business Process Outsourcing 業務アウトソーシング

お客様の業務を定型化し弊社スタッフがお客様に代わり業務運用を担当いたします。お客様は本来の業務に資源を集中する事が可能になります。



## Field Support お客様サポート

コールセンター、カスタマーサービスなど、常にお客様の身近な存在でサポートいたします。そしてお客様への安心と満足を提供いたします。

## Product Service パッケージソフト開発

当社の長年にわたるシステム開発実績で蓄積されたノウハウを提供することにより、短期間でお客様にソリューションを提供いたします。



## Information Devices sales Supply sales

### 情報機器／サプライ品販売

PC、タブレット、サーバー等の情報機器を提供いたします。

また、プリンタトナーや各種PCアクセサリなどの消耗品も豊富に品揃え、毎日のオフィスワークをトータルにサポートいたします。



## Media Archive Service メディア・アーカイブサービス

お客様の貴重なメディア媒体を、安全安心にご指定の媒体へデジタル化いたします。

また、デジタル化されたデータを高度なセキュリティを確保した当社のデータセンターに保管し、クラウド上で検索・編集するサービスもご提供しています。

## Security Support セキュリティ対応

日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃への対策は、ICTを安心安全に活用していくための大きな課題となっています。お客様のセキュリティ環境が常に最適な状態を維持できるためのご支援をいたします。

## 会社概要

社名：株式会社エフコム F-COM Co.Ltd.  
本社：〒963-8520 福島県郡山市堤下町13番8号  
代表者：代表取締役社長 斎藤 正弘  
設立：1980年9月12日  
資本金：2億7千万円  
売上高：87億1千万円（2023年3月期）  
従業員数：342名（2024年1月31日現在、正社員数）  
関係会社：株式会社エフコムホールディングス  
株式会社エフコムマーケティング  
株式会社マイコム





## <本報告書の対象範囲>

(対象期間)

2022年12月1日～2023年12月31日

ただし、一部には2022年12月以前、2023年12月以降の  
考え方、取り組み及びデータ等が含まれます。



エフコムHP



報告書バックナンバー

●発行日／2024年3月29日

●発行／株式会社エフコム 福島県郡山市堤下町13番8号 TEL：024(922)2555 FAX：024(922)2696

●発行責任者／代表取締役社長 斎藤 正弘

●発行部署／広報委員会

●企画・編集責任者／鞠子 政明

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。